

～令和6年度南房総市「市政懇談会」～

11月2日（土）意見交換

職員の研修について

【質問者】

岩井から参りました●●と申します。

職員のですね、研修について意見を述べたいと思います。

南房総市は東京から直線距離で館山まで約100キロ、移動時間で車で約1時間半の位置に南房総市はあります。

私が考えているのは、若手職員を教育していないので、時代の変化に対応できていないのではないかと思うようになりました。

それでは時代の変化に対応するためにどうすればよいか。一つの方法は、職員の研修です。

職員の研修といっても、市が考えている研修と私の考えている研修は違っていて、私が考える研修は、職員自身で研修をする、計画することです。

前回の市議会で佐藤議員だと思いましたが、市長に南房総市の将来について質問されていました。

市長の答弁を推察すると、南房総市に残された時間は私の感覚ではあと20年、早いと15年と考えています。

急がないといけない事項ですが、急いだからといってすぐに解決できる問題でもないと思っています。それではどのように解決するか。南房総市の将来、10年後、15年後に職員が何をしたいのか、どのようなまちを作りたいのか。その構想を考えるための研修です。

即効性を求めてはいません。

対象は35歳以下、研修内容は自由。なぜ35歳以下にしたか。一つが、体力の低下し始める年齢だからです。

研修はあくまでも将来の南房総市のためになることです。

例を四つ挙げます。

1、北海道猿払村。世帯所得がなぜ1000万円以上あるのか。

役場の取り組み、課題を研修。この狙いは、南房総市に住んでいてどのような将来性、可能性があるのかを見出すためです。

2番目。これは急がないといけない事項ですが、国民保護条例が発動された場合、行政はどのように対応するのか。研修先、石垣市と与那国町。

3 番目、将来の海岸整備。研修先、アメリカ ロサンゼルス。研修場所、ロングビーチとドッグビーチ。

4 番目、前回の市議会の一般質問で、観光トイレの設置を考えてみてはどの意見がありました。研修先、ノルウェーだったかスウェーデンちょっと国までの記憶はありませんが。視察場所、海岸の設置されている一部ガラス張りのトイレ。

以上、簡単に例を挙げてみました。

あくまでも研修内容は自由で、職員が関心のあることや興味のあることです。

研修人数は 1 回 2 名。移動手段、宿泊先の手配は出張する職員自らが手配。これはインターネットで予約できるので、自宅からでも可能だと思います。

ここで一番大事なのは、研修先で有給休暇を利用可能にすることです。

日数は 2、3 日。1 年ごとに国内、国外で考えてみてはいかがでしょうか？

このような取り組みをしている自治体はないと思います。

旅費の確保については追加工事費で説明したいと思います。

以上です、いかがでしょうか？

【市長】

それでは私の方からお答えしたいと思いますけれども、今ご提言のあったいわゆる職員の育成ということは、本当に大変重要なことだというふうに認識しています。

今●●さんからご提案のあった、国際的な視野も含めた中で研修に行くっていうこと。それも現実的に可能かどうかということもあるかもしれませんが、大事なことは、今は●●さんのお話の中にもありましたけれども、職員自らがですねテーマを考える、南房総の未来を考えそのテーマを設定し、それを解決するためにどうしたらいいかというようなことを考えるという力を身につけていくことが大事だというふうに思っています。

ごくたまたま最近はですね、ごく最近そういうような機会の研修というか、そういう研修をこなしてきた職員もおりますけれども、ちょっとここ数年、これは言い訳ではありませんがコロナの影響もあって、そういった機会がちょっと減ってきてたのは事実でございましてけれども、引き続きこの南房総の将来を考えたときには、職員の資質向上ということは最も重要な部分だというふうに私も思いますので、そうした研修の機会というものが増やしていきたいというふうに思います。

追加工事費について

【質問者】

追加工事費の件で話をします。

大型工事でよく追加工事費が出されます。

本来ならば請負契約で契約されているので、工事費は負担がありません。

しかし追加工事費の中で、インフレまたは物価高による資材価格の高騰があります。

なぜ追加工事費を支払うかの理由ですが、国が請負業者に損失を出させないように、指導か通知か何か知りませんが、前回の一般質問でやっと市議会議員からインフレスライドという言葉を知りました。

市議会議員も少し進歩したのかなって感じはしました。

工事案件を見てですね、事業者は安く入札し、追加工事費で利益を確保する。請負業者の策略ではないかという、そんなように感じます。

追加工事費は厳格に対応すべきではないかと思いますが、以前、とみやま富楽里の資材価格高騰のための追加工事費の計算方法と計算式を市に問い合わせをいたしました。

商工観光部長からの返信をいただきましたが、質問への回答はありませんでした。

そこで確認ですが、南房総市ではインフレスライド、単品スライド、複合スライドを導入されていますか？

厳格に対応すれば、研修費ぐらい軽く捻出できると思います。

いかがでしょうか？

【総務部長】

総務部長の座間です。ご質問にお答えさせていただきたいと思いますが、インフレスライド、こちらにつきましては導入しております。

それと単品スライド、こちらも導入しております。

それから復興スライド、そういうものでしょうか？ちょっとそこが聞こえなかったんですが。

【質問者】

複合スライドです。

【総務部長】

すいません。そちらについても導入しているということですので、確認が取れておりますので、●●さんのおっしゃられているそれらにつきましては、導入しているということになります。

罹災証明について

【質問者】

では、引き続き質問させていただきます。

罹災証明の再調査の件です。

副市長に質問させていただきます。

住まいが被害を受けたときに最初にすることは何でしょうか？

【副市長】

被害を受けたときですね、罹災証明の申請をしていただくようになりますけど、要するに被害状況の申請ですね。調査の申請をしていただきますけれども、そういうことでよろしいですか？

【質問者】

はい。

一番最初にすることはですね、写真撮影をすることです。

それから後片付け、罹災証明とか、そういう順番になります。

市のホームページの防災のところを見ていただければ、そこに書かれていますので、ご参考にしてください。

それではですね、罹災証明の再発行を限りなくゼロに近づける方法。この件をお話したいと思います。

現地調査に入る際、建築士を同行させると、再調査を希望する人がいなくなるということを以前インターネットで見ました。

建築士といっても、多分地元の大工さんだと思いますが、できましたら、担当の課の方はちょっと調べてみてください。

【副市長】

ありがとうございます。参考にさせていただいて、また勉強させていただきます。

被災時のメディア対応について

【質問者】

災害時のメディアコントロールについて。

以前の台風のときですね、私4日間、富山の岩井コミュニティセンターで、支援物資の配布を手伝っていました。

市の職員がですね、報道クルーが来ても、何も対応していませんでした。いわば放置状態でした。

私も心配になり、報道クルーにですね、センター長の許可を取ってくださいと。ここは市の敷地内ですからと伝えたところ、素直に聞き入れてくれました。

そんなことが3件くらいありました。

撮影されてまずい場所もあるので、しっかりと報道取材クルーには伝えるべきだと思います。

それと、市の職員と市民の区別が、見極めができないってことですね。

事務所内で仕事をしているときは問題ありませんが、職員が事務所から出たときに、外で見極めができず、誰に聞いて聞いたらいいかわからず、事務所まで行って指示を受けていました。

災害時等は、職員と市民の区別を明確にされてはいかがでしょうか？

【市長】

それではですね、いわゆるメディア対応なんですけれども、かなりその時々、状況によってある意味では臨機応変に、通常、普段から考えてるようなマニュアル通りにはいかないのもやっぱり現実ですので、でも少しでもメディアの方々に有効に情報発信していくということももちろん必要ですし、そうした方々の力をうまく借りながら、復興に繋げていくということももちろん大事だと思っていますので、やはりそうした意識をしっかりと持って、職員が注意深く作業に取り組めるように、これからもそういうような対応を学ぶ機会があれば、しっかりと学んでまいりたいというふうに思います。

それとですね、職員と一般の方がわかりづらいということについては、それはおっしゃる通りで、そうした工夫はあった方がいいなというふうに思いますので、現状でもそうしたものがあるかもしれませんが、しっかりそうしたことに対しては対応していきたいと思いません。

津波に係る区民への伝達について

【質問者】

白浜町の●●です。

明日の白浜町の一斉の津波避難訓練後、南房総市のハザードマップ、1000年に一度起こりうる可能性のある津波について、区民に話そうかと思っていますが、それで説明の内容なんですがちょっと聞いてもらって、いいかどうか、ちょっと市長判断をお願いします。

関東では、これまで津波は最高で10メートルと言われてきました。

2016年3月6日、フジテレビの報道、地震学者 都司嘉宣氏の調査で、1605年慶長地震で鴨川市の西徳寺に保管されていた古文書から、本堂まで民家が漂着し、宝物、ご本尊、仏像が全て流されたという意味の記述から、寺の標高を正確に計測。ご本尊まで17メートル浸かるぐらいでは重いご本尊は流されないの、最低18メートルの高さまで津波が来たとなりますと分析の調査結果を千葉県防災担当に伝えたところ、情報を集めて県民に知らせていくとのこと。

千葉県は2018年11月13日、過去最大級の巨大地震や大型台風が発生した場合の被害想定を公表。地震発生後は、太平洋に面した房総半島南部や外房を中心に、大きな津波が押し寄せ、最大水位は南房総市で25.2メートルに達すると推計。被害想定は、県内市町村に伝達し、各地の防災に役立ててもらおう。

という趣旨で説明しようかと思ってるんですが、いかがでしょうか？

【市長】

説明内容としては、今●●さんのおっしゃった鴨川での過去の事例について、ちょっと私も不勉強で、そこまでのことは私は事実としてちょっとわからないところありますけれども、●●さん等々区長の皆さん方にも以前にもご説明しましたように、また市民の皆さんにも、ハザードマップ等では周知をさせていただいておりますけれども、考えられ得る最大級の津波想定が現在されております。

その最大級の津波想定の場合には、特に白浜地区でいえば、大まかに申し上げればそうした事態が生じたときには、白浜地区の場合には山のきわの方まで津波の浸水域になってしまうと、こういう想定がされておりますので、それは想定されている事実として区民の方々にお話いただいて結構です。

少しでも早く、いち早く、わかりやすく言えば、山に向かって逃げろと。これが一番の津波からの避難対策だというふうに思っておりますので、今●●さんのおっしゃられたお話の通りの私の回答になっているかどうかわかりませんが、私であれば、そのような話の仕方になるかなというふうに思います。

【質問者】

ありがとうございました。

明日、避難訓練ならば、真っ赤っかのハザードマップをみんなに見せて注意喚起したいと思います。

以上です。ありがとうございました。

生ゴミ処理機について

【質問者】

●●です。

最後は参考ということで担当の課の方、聞いてください。

生ゴミ処理機等の購入補助について、担当されてるのは多分、環境保全課かと思います。

私は以前からですね、生ゴミ処理機を使用しています。

大変恥ずかしいんですけど、使用していて、使用の実例をちょっと紹介したいと思います。

私はクリーンセンターに直接搬入してます。

45Lのゴミ袋を使ってですね、ビニール代は省いてですね、この生ゴミ処理機を使ってどういうメリットがあるかちょっとお伝えしたいと思います。

1、ゴキブリを見かけなくなった。以前ですと、年間1、2匹は見たような気がしますが、今年一度も見えていません。

2番目、コバエも発生しない。

3番目、部屋が臭くならない。

4番目、ゴミ出し回数が減少する。今年のゴミ出し回数は5回、金額468円、昨年のゴミ出し回数5回、金額520円。

以上です。参考になりましたでしょうか？

【建設環境部長】

建設環境部長の鎌田でございます。

どうも貴重なご意見、ご提言ありがとうございます。

生ゴミ処理機を使った例ということで、いかに効果があるかということをおもいの方もですね、ゴキブリがいなくなるとか、コバエがいなくなるとか、そういったようなこともあまり認識してなかったのも、ご意見を頂戴いたしましてありがとうございます。

今後そういったようなことも、PRの中でですね、使えるようであれば使っていきたいと思えます。

ありがとうございました。